

# 幼稚園の手工に就いて

玉成保姆養成所研究科生

唯今の幼稚園の手工をどういう様にして参りましたらよいか、私の考へを云はせて戴き度う存じます。

第一の理想と致しましては、子供に色々な材料を實驗させて、段々自分から構作して行ける様な方法をとつて行き度いと思つて居ります。それには材料を室内の適當な場處に時々變化させたものを置いて、其一つ一つが材料として、ど だけ多くの可能性を持つて居るかを幼児に知らせるの御座います。初めの何も出来ない子供には、折紙の置いてある處には何かやさしく折れるものを二つ三つ作つて置いてあげましたり、又色々な材料

を用ひて他の子供が作ったものを並べて見せてあげる様に致します。又先生が御友達となつて一つの池を作つて、池の中には金魚を泳がせ度い龜も遊ばせ度い、と云ふ希望をもたせながら手早く折紙で折つて見せてあげますと、こう云ふ事が出發で、自分も作つてみたいといふ興味が起つて参りませう。そして子供がどんな折方でも一折り折りましたらば、直に先生の眼には、帆かけ船に、又衝立に、本立てに見えて行く様な經驗と想像が大切であると思ひます。そして何でも子供の望むものを自分で作る事が出来る様に導いて参ります。子供自身に工夫させて、子供には出来ない急所々

々を相談相手となつて参ります。こうして練習されて参りますと、何時先生が相談してよいか、彼方でも此方でも別々なものが作り出されて居るのを、臨機應變に見守つて行くので御座いますから子供のしたいと希望するところのものが僅な先生の言葉、又は取扱ひの結果、大したものを見る事が出来る様になります。之を思ひますと先生は、餘程創作的にならなければならぬといつくゞ感ぜられます。

どうかして少しでも早く、こう云ふ幼稚園の手工にしたいと云ふ理想に向つて進むには、先生の考へをまづ第一に改良する事で御座います。それには限られて居る材料をもつて、大勢の子供を一時に準備してゐいた方法で致さない方がよいと思ひます。

手技の實習の度に、何を作らうか、何で作らうか、どう云ふ方法で作らうか、と此三つの條件を

考へれば考へ程る良い工夫が出て参りませんで随分困りました。何時も何でも構はず、出来上りを畫用紙に貼つてしまふ事や、又袋か必ず籠にするより外に、何も考へが出て参りません。あまり考へますと、どうしても出来上りを美しく手際良くしたい爲に、先生の手を多く入れるものを考へる様になります。こう云ふ事では子供の進歩は出来な上に、人を頼る心を強めるばかりで無く、大變に悪い習慣をつける恐ろしい事であると云ふ事がわかりました。

先生が教へるものは、子供に考へのつか無いもので、又出来る丈け持つて遊べる面白いものを考へて、何時も同じ様なものを作らせ度く無いと思ひます。そして一時に同じものを作らせた時に、全體の表し方が皆同じで無く何處かにそれ〴〵違つた表し方があつて、先生が一人々々の違つてゐる處を味はふ事の出来る様に指導して行く事が何

より大切であると思ひます。

出來上りの上手下手を重く見るので無く、折りの付け方缺の使ひ方を見て、全體としてどう云ふ傾向があるか、又昨日と今日とはどう云ふ違ひがあるか、と云ふ事を考へ度いと思ひます。それから時々全體として面白い結果を見る事が出來ましたら、子供と一緒に皆御互ひの味はふ事を、成る丈けする様に務め度いと思ひます。

あまり極端かも知れませんが、手工は人から教へられるものでは無く、自分から工夫するものだと思ひます。口や手では、或る程度までしか教へる事が出來ません。先生が凡てを教へてしまふよりも子供に經驗させる方が眞の教育だと思ひます。

そして各自々の異つた現し方を獎勵するのに、一番初めにものゝ見方を養ふ事からして行き度いと思ふので御座います。それには御部屋に子

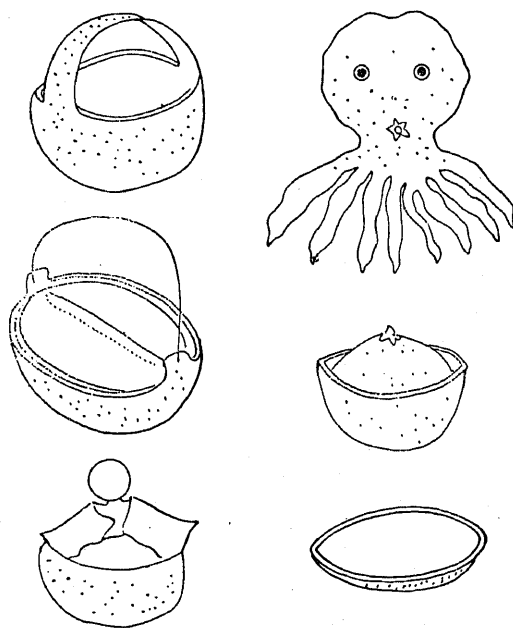
供の参考になる玩具や置物を置いて、良いものを澤山見せる様に心懸けます。又椅子でもテーブルでも、作る時に何かの参考になる様な點を注意して、立體のものでしたらば、正面からだけで無く横からも上からも後からも斜からも、見て行きますと、限り無い變化と味はひが色々な變つた姿を現すのに氣が付きます。その見方を先生が注意しなければなりません。

作つてみる事は見方を進め、見方が進めば作り方も進んで行くのが當然で御座います。自分で見て自分で工夫する時、其處に初めて、創作があり眞の美の理想を進める方法となります。見たいと思ふ心、現はしたいと思ふ心は、ほんとうに人の純粹な心の欲求から出るもので、誰でもが持つてゐると、フレーベルが云つていらつしやいます事を、手工に就いても味つて行き度いと思つて居ります。

そしてどうかして私が子供の製作の、上手下手にのみ、注意を引かない様に、又子供の思つた通りのもので、先生の手の入らないものを作らせる様にしたいと考へて参りますと、材料としては、自然物を最初に出来る丈け用ひて参りましたら如何かと思ひます。それは自然物の何一つとして、上手下手に出来で居るものは無く、特別に人の手では出来無い自然の色を味はせて行き度い爲に思ふので御座います。

例を二つ三つあげてみますと、巴里の幼稚園で美しい小石を用ひて、色々に模様を作つて遊ばせていらつしやるとうかゞひました。石には色々な石獨特の模様があり、濃淡とりくゝの色をして、其の形にはなか／＼面白いのが御座いますから、立派な模様構成の材料になります。夏等には水の中で致しましたら特に色の美さを感じる事が出来て一層面白い事では無いかと思ひます。

又自然物は其の時期にあるものを用ひますと容易に材料を集める事が出来ますから、唯今の密柑を用ひても、こう云ふ様な色々なものが出来ます。



皮は他の方の召し上つた、後と云ふので無く、皆一緒に注意しながら大事に皮を取つて、中實は其

場で戴きましたり、又後に寒天の中に入れて、御食後に戴き度いと思ひます。

それから何時でも得られる隠元豆や、豌豆や、メロンの種子等を用ひて、油土の様なものを平にした上に、思ひくゝの模様を並べて手で抑へると、面白いものになると本に書いて御座いましたので、してみたいと思つて居ります。又自然物は何時までも、とつて置ける事を経験させたいと思ひますので、皆で拾つた落葉や、又長い間御部屋に飾つた花や、皆で一生懸命に丹精して咲いた花を、何時までも残す様に、皆で一緒に押葉に拵へます。毎日紙を取換へるだけでも、新聞紙を折る事又昨日使つたのを元の様に折り戻す事でも、不知不識の間に折紙の練習が出来ませう。

又海藻を措葉にして、自然の糊は如何に巧に出来て居るかを、経験する事が出来たらばほんとうに嬉しい事であると思ひます。

こうして出来上つた押葉は、色々に手を入れて帖面の表紙に、又箱の蓋に、或は額にと工夫して面白いものが出来ませう。海藻を用ひては、海の景色の御話を聞かせて後、思ひくゝに海藻を貼つて海の景色を畫かせたならば、面白い結果を見る事が出来ませう。

この様に長い間大切にされたものを、又尙美しいものにする事を経験致しますのは、ほんとうに大事な事と思ひますから、又子供に興味のある廢物を利用する事も良いと思ひます。例へば古い硝子瓶に、エナメルで色を付けたたり、模様を畫いても見違へる程美しい花瓶になりますし、又新聞紙細工で面白い花瓶に變へる事もして見たら御座います。

又大工から不用の木片をもらつて、色々な形を利用して面白いものにする様になりたいと思ひます。何時で御座いましたか、敷居の木片を或る子

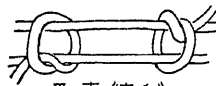
供は戸棚として、其れにクレオンで茶に塗り、四角の紙の四隅を捻つて作つた御皿が五枚、飾られてあるのを見せて戴きました。こうして御皿は五枚一組となる、と云ふ事を経験する事は、實際生活にも必要なことと思ひます。ですから、例へばお壽しを作りました時等、唯良い加減に並べるより、取合せを考へて、笹の葉一枚も添へる心でありたいと思ふので御座います。

實際生活に役立つ手工として、ハンカチーフを何時も使つた後は疊む事、又窓掛の掛方、帽子掛の整頓を練習することも、一つの方法では無いかと思つて居ります。そして私は、紐結びの練習を面白く遊びながら教へて行き度いと思つて居ります。駒結びは普通使はれて居りませんが、あまり使はれ無いで必要な結び方を例へば、太郎さんが大きな御荷物を持つて、ポチを連れて、御花屋さんに参りましたけれども、あまり御荷物が大きいの

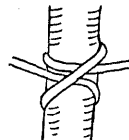
で、御用を済ませるまで柱に結へてをきたいのですけれども、何時もの駒結びではどうしても滑つてしまひます。其處で漸く考へ付いたのがこの滑らない結び方で竹結びをする事になりました。と



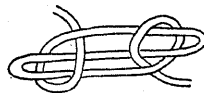
機 結 び



電 車 結 び



竹 結 び



つ め る 結 び

云ふ様な方法で子供に出来る範圍の結び方をして参りませうと思つて居ります。そして結び方の練習として、こう云ふ時にはどう云ふ様に結びませう、と問題を出す様にしても、面白う御座います。

次に考へ方が全然違ひますけれども、學術應用として數學物理學化學等の學理と、實地を不知不

識に實驗する様に、子供の興味にかなふものを作つて行き度いと思ふので御座います。挺子の利用として桿秤を作つてみる事も出来ませう。糸を強く引いて、指で弾いて音が出るのに注意致しますと、糸の振動の經驗を致しませう。重心が何處にあるかは、彌次呂兵衛を作つて遊びながら知る事も一つの面白い事であらうと思ひます。

考へれば色々な方法が出て參りませう。

どう云ふ方法と致しましても、先生として指導の爲を考へるので無く、又子供の手工力を増す事より何より、自分で作る時の面白味と、其れが出来上つた時の喜びとを、子供と共に味はひ、この味はひこそ、他の物質の何物にも換へられない事を何處までも考へて行きたいと願ふので御座います。

× × × × × × × ×

## あ る 日

お室のストーブはまつかに燃えて、外は、粉雪が盛んに降つて居ます。大喜びでさつきから雪つりなどして居た人も、冷くなつたと見えて大方御室に歸つて來ました。

A 「皆でスキー場を作りませうか」

B 「あゝそうだ、それがいゝや」と忽ち意見一致して早速スキー場を作りにかゝりました。

先づ砂箱にお砂を運んで、山を作り、雪を降らせました。雪はあり合せのウドン粉をまいたり、白墨をけづつたり致しました。

「先日砂屋に行きましたら奇麗な白砂がありましたがあればしたら結構でせう。」

(七八頁につづく)